

令和2年 安曇野市版環境家計簿 集計結果

1. 目的

「安曇野市地球温暖化対策実行計画」の推進に関連し、エネルギー消費に係る二酸化炭素排出量の把握と、市民への普及啓発を目的として実施した。

2. 対象者

市内在住の世帯

3. 調査方法

郵送、メール、ながの電子申請サービスにより調査票の送付や回収を行った。

4. 調査項目

- (1) エネルギー消費量（電気・LPガス・灯油・ガソリン・軽油の使用量）
- (2) 省エネについて日頃取り組んでいること

5. 調査期間

令和2年1月1日～12月31日

6. 回答世帯数・世帯の概略

- (1) 世帯数：63世帯
- (2) 世帯の平均人数：3.0人（1人～7人）
- (3) 住居の種別：一戸建て 61世帯／アパート 2世帯
- (4) 自動車の平均保有台数：ガソリン車 2.2台／軽油車 0.6台

7. 調査結果

今回の集計結果について、エネルギー源ごとの1世帯あたりおよび1人あたり温室効果ガス排出量を前回集計結果と比較すると、表1のとおりであった。

表1 エネルギー源ごとの1世帯あたりの温室効果ガス量の比較

エネルギー源	温室効果ガス排出量(単位：kg-CO2)					
	1世帯あたり(R1)	1世帯あたり(R2)	増減(R1→R2)	1人あたり(R1)	1人あたり(R2)	増減(R1→R2)
電気	2,701.7	2,588.8	-4.28%	895.1	853.9	-4.60%
LPガス	385.6	454.7	17.92%	127.8	150.0	17.37%
灯油	1,360.0	1,599.0	17.57%	450.7	527.4	17.02%
ガソリン	2,131.2	1,867.8	-12.36%	706.3	616.1	-12.77%
軽油	102.0	254.7	149.71%	33.8	84.0	148.52%
合計	6,680.5	6,765.0	1.26%	2,214.1	2,231.4	0.78%

今回の集計で採用した温室効果ガス排出係数は、表2のとおりである。過年度分集計結果との比較のため、平成25年度より変更していない。

表2 温室効果ガス排出係数

エネルギー源	排出係数	エネルギー源	排出係数
電気	0.516 [*]	ガソリン	2.3
LPガス	6.2	軽油	2.6
灯油	2.5		

※環境省報道発表資料による (<https://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17532>)

なお、「安曇野市地球温暖化対策実行計画」では、電気、LPガス、灯油の合計を民生家庭部門として計算している。今回の同じ項目の合計は、4.64t-CO₂であった。実行計画に掲載されている平成20年度（2008年度）の排出量推計結果（3.12t-CO₂/世帯）と比較すると、1世帯あたりの排出量は約1.5倍に増加している。

表3 1世帯あたり排出量の前回推計結果との比較 増減率以外の単位：t-CO₂

実行計画策定時推計 (H20年度)	前回 (R1年)	今回 (R2年)	増減率 (H20→R1)
3.12	4.45	4.64	48.7%

また、今回の調査で寄せられた、省エネに関する取り組みは以下のとおりであった。

- ・不要な照明を消灯する。
- ・電気をなるべく早く消す。
- ・省エネのことを思い、スイッチのON・OFFなどに気を付けて毎日を過ごす。
- ・省エネタップに変更した。
- ・電灯をLEDにする。
- ・冷暖房は温度を見ながらこまめに消したり、温度調節をこまめにする。
- ・エアコンを極力使用せず、扇風機等を活用した。
- ・冬場はこたつから充電式あんかを使用した。
- ・蓄熱式暖房の使用開始を遅らせた。
- ・南側の廊下など暖かい場所ではストーブの使用を控える。
- ・エアコン、灯油ヒーターの設定温度を下げる（18～19℃）。
- ・反射式石油ストーブの上でお湯等の利用を心がける。
- ・ストーブの上で煮炊きをして、ガスの使用を減らす。
- ・夏、涼しいうちに料理を作り置き、秋冬は夕方まとめと1週間分の料理作り。
- ・部屋の戸を閉めて冷暖房の無駄をなくす。
- ・冷房を利かす部屋を絞って、できるだけ同じ部屋で過ごすようにした。
- ・風呂は時間をおかずにつけて入る。
- ・公共の入浴施設を利用する。
- ・ボイラーを省エネタイプに買い替えた。
- ・タイマーをセットし、便座のあたため機能をオフにする。
- ・凍結防止帯にスイッチをつけてワンタッチで切替できるようにした。
- ・車から不要な荷物を下ろす。
- ・低燃費車（ハイブリッドカー）に買い替え、燃費が向上した。
- ・アイドリングストップを心がけ、暖気運転もしない。
- ・車のアクセルを8分くらいに抑える。
- ・遠出の際は燃費の良い車を利用した。
- ・晴れた日は自転車通勤をした。
- ・買い物の回数を減らした。
- ・ペレットストーブを設置し、灯油ストーブは災害非常用にした。
(燃料単価は若干割高。灰掃除の手間あり。燃料補給は楽。炎による癒し効果あり。)
- ・市の補助金を受け、ペレットストーブを設置した。
- ・緑のカーテンをダブルに、断熱材を自作して日中は上げ、夕方は下げた。
- ・カテエネに登録しWEBで電気使用量等を見られるようにした。
- ・記録をもとに家族と話し合い、普段の生活について考え、環境負荷軽減を意識するようになっている。
- ・地球温暖化対策事業の一環で太陽光発電システムを設置して電力の安定的な供給に寄与した。